

黒川翠山の初期の写真

今年、写真家の黒川翠山が 1882 年（明治 15）に生まれてから 135 年になります。「写真資料から 13」（『[資料館紀要](#)』第 42 号）でも記したように、翠山は 1899 年（明治 32）頃から写真撮影を始め、1903 年（明治 36）には写真が出版物に掲載されるまでになっていました。

当時、三条富小路にあった便利堂書店（現在の株式会社便利堂の前身）では、京都の写真集の発行を始めていました。第 1 巻が『[京都山水](#)』（または『京都の山水』とも）、第 2 巻が『鴨東百美人』、第 3 巻が『[京都の寺院](#)』でした。第 1 巻が 1903 年（明治 36）4 月、第 2 巻が同年 4 月、第 3 巻が同年 9 月の出版です。

翠山は『京都の山水』に「八瀬の初冬」と題する写真が入選して掲載されていましたが、『京都の寺院』では懸賞付きの写真家として選ばれた 17 人の 1 人となり、5 点の作品が載りました。そのうちの一つ「妙心寺山門上 十六羅漢」は、当館にキャビネサイズのガラス乾板が残っています（No.[1925](#)）。これまで撮影場所等が「不明」とされていましたが、これにより撮影地点（妙心寺三門（山門とも書く））、撮影年（1903 年）が確定しました。



黒川翠山撮影写真資料 No.1925

『京都の寺院』に載る他の写真（妙心寺、五智山石仏、大徳寺、延暦寺根本中堂）は当館に収蔵していません。しかし、翠山が写真を撮始めた当初より社寺等の文化財写真も手掛けていたことがわかる点で、この写真は貴重な資料といえます。

（写真資料から 82 資料課 大塚活美）

（2017年7月27日公開）